

連盟創立三十周年・エール創立二十周年

多数のお客さまを迎えて 記念の集いを開催



連盟に寄せられた

より大きな期待に

一層の飛躍を誓い合う

平成十五年三月九日、平井コミュニティ会館において、クリーン少年野球連盟創立三十周年とクリーンエール（母の会）創立二十周年を祝う集いが開催され、早春のひととき、館内は終日少年野球一色に包まれました。記念の集いは、式典、祝賀会、記念写真展との三つの催しで行われ、それぞれ事前の行き届いた準備など、連盟一丸となった協力によりいずれも大盛況のうちに開催されました。

以下、当日を振りかえり、あるいは出席できなかった方々へのご報告を交えて、各集いの様子を、写真、お言葉を中心にご紹介いたします。

【式典】

指導者の永年の尽力に

表彰状は選手たちから

感謝の心をこめて手渡される



司会をされる
橋高総務部長

本式典を一部として、全チームの選手、指導者、多数の父母など約三〇〇名の方々の出席のもと、永年にわたる連盟、チーム、審判、エール等に尽力された方々への表

ナイスキャッチ

平成15年3月30日
クリーン少年野球連盟
創立三十周年
クリーンエール
創立二十周年
特集号

発行所
平井・小松川地区
クリーン少年野球連盟
広報記録部



彰がされました。また、三十周年節目の年に活動する選手たちによって、九チームがユニークな内容で紹介されるなど、おごそかな中にもにぎやかに、連盟創立三十周年、エール創立二十周年記念の式典でお祝いされました。

開会宣言

式典は、橘高史郎総務部長の司会により進められ、小松民夫副理事長が開会を宣言。



「永年にわたって力を尽くしてくれた方々の表彰や選手みなさんのチーム紹介もあります。今日はみんなでお祝いしましょう。」と宣言の小松副理事長



蔵元会長挨拶

良き先輩を見習って
一生懸命頑張ろう

蔵元富造会長が主催者を代表し、選手たちに語りかけるように挨拶されました。



今日は、クリーンにとって大変めでたい日です。連盟三十周年、エール二十周年、これも多くの皆様のお力添え、創立時やこの間の選手や父母たちの努力があったお陰です。この三十年の間には、いろいろな選手たちがおりました。甲子園出場やプロ野球に進んだ人、いろいろなスポーツに進み夢を果たせた選手、また、一生懸命勉強して政治家になった人たちもいます。みなさんも良き先輩を見習って一生懸命頑張ってください。これから永年ご尽力いただいた方々の表彰がありますか、心からお祝いしてあげてください。ご父兄の皆様の一層のご協力をいただきながら、連盟は、益々発展するように、みなさんと一緒になって、一生懸命努力して行きたいと思ひます。

表彰式

永年功労者51名を表彰

多大な功績を残された

故加藤信治氏に連盟特別賞を贈る

ついで表彰式に移り、別表に記載の方々に表彰状、感謝状が贈られました。

表彰は、チーム創設三十年となる3チーム、及び永年にわたって功勞された各チーム指導者、連盟審判部員、連盟役員やエール役員に対して、蔵元会長から各代表者に授与、各受賞者への感謝状は、全選手代表たちが感謝の心で介して手渡されました。表彰式では、昨年、審判部指導部長として任に当たられていた中で逝去された加藤信治さんに対して、連盟特別賞を奥様にお贈りいたしました。



《連盟特別賞を

受けられる加藤様》



《受賞風景》

連盟創立三十周年表彰者

*敬称略

◇チーム表彰 30年

・平井ビクトリーズ
・山彦エンゼルス
・キングドラゴンズ

◇チーム在籍 30年

20年以上

・YA 佐藤 弘 青木信市
・YA 三沢正力
・KL 高橋 健

10年以上

・BP 北村忠夫
・SJ 中村守光 樋口三夫
・SD 小泉利一 鈴木志郎

・KL 大和田隆 五十嵐務
・KD 菊橋一彦

・BP 新井寿生 足立 始 福富嘉宣
・HV 片岡英雄

・SJ 金子忠雄 佐藤敏彦 和田潤一
・SD 土屋雄資 中島久吾

・YA 佐藤隆昌

◇役員永年表彰

最上正義

川嶋 進

高橋成知

工藤 実

三山 是

向後勝利

後藤幸一

福富 博

小松民夫

富田興久

橋高史郎

岩瀬昭夫

◇連盟特別表彰

加藤信治 (故人)

◇感謝状

中金硝子

(株) (有)総武アド・センター 加藤季子

◇エール表彰

平井三丁目親交会

小暮淑子

永沢セツ子

安生千鶴

佐藤百合子

佐藤光子

鈴木明美

須藤賀子

鈴木久美子

◇審判表彰

20年以上

高橋茂光

平岩 勉

工藤義人

佐藤謙蔵

10年以上

竹田章二

岩崎智秀

二瓶康彦

蜜 宣雄



《佐藤光子エール副会長》



《須藤賀子エール副会長》



《名誉会長、会長と団んで全 受賞者のみなさん》



《鈴木久美子エール副会長》

各チーム選手たちが

1分で自チームをPR

ユニークな内容に爆笑も！

平井ビクトリーズ



会場いっぱいの方へのチーム紹介が、九チームの選手たちの思いの工夫で行われました。
なお、約束時間は1分間。各チームそれぞれの発表に、場内が笑いに包まれるなど、にぎやかなひと時が演出されました。

(お断り) 各チームのコメントは、発表をメモしたもので、足りないところ等はおゆるください。

キングレパーズ

ぼくらキングレパーズは、みんなが野球が大好きで楽しくやっています。昨年度は、試合で勝つことができなかったけど、今年度の皆さんには、一戦一戦大切にしてやってほしいと思っています。頑張ってください。

選手代表が発表



ビクトリーズは、気のいい人たちが集まり、上位に入ることを目標に毎年頑張っているチームです。五年生たち主体のチームですが、試合慣れしています。しかしまだ二年あるので、今年は優勝ここだわらないで来年ねらって行けばいいと思います。これからもビクトリーズは戦って行きますので、応援よろしくお願いします。

選手代表が発表



西子ペガサス

連盟創立三十周年おめでとうございます。西子ペガサスは、去年から連盟に入ったばかりの一年生ですが、三十周年の歴史をきずつけないように全力プレーで一生懸命頑張ります。みんなで力を合わせて頑張りますので、応援よろしくおねがいします。

選手代表が発表



ブライトプレイヤーズ

ブライトは6年2人、5年6人、4年6人、2年1人の15人です。年々人数が減っていますが頑張っています。ブライトのモットーは元気で明るいことです。こんなブライトですが、応援よろしくおねがいします。

選手代表が発表



スーパードラゴンズ

スーパードラゴンズの部員数は6年5人、5年7人、4年1人、3年1人の14人です。今年は去年と違って部員が少ないので、あまりいい結果が出せないと思います。しかし一生懸命練習に頑張れば、いい結果が出せると思います。去年よりひとつでも多く優勝できればいいと思います。

選手代表が発表



今年は一生懸命優勝目指して頑張ります。キャプテンと話合いながら頑張ります。試合ではミスを少なくして頑張ります。ホームランを1本でも多く打てるよう頑張ります。練習に力を入れて試合で頑張ります。練習には休まず試合で頑張ります。

各選手が今年の目標を発表

山彦エンゼルス

今年の新チームは
・キょうは試合でうれしいな
・シーんと引っ張り頑張るぞ
・グランドいっぱい頑張るぞ
・どんなところでもごあいさつ
・ライトゴロでホームラン
・ゴーゴー回れホームラン
・シーン今日も勝ったぜキンドラは
・ズーとキンドラ一番だ。

各選手が頭文字を掲げて

キングドラゴンズ



シルバージャガーズは、ここ2、3年前まではとても活躍がありました。しかしここ数年は残念な結果に終わってしまいました。でも僕たちは目出度く今年は優勝をねらえるチームに戻れそうです。ただ部員が少ないのでチームが存続できるか不安ですが、我がチームは永遠に不滅です。ジャガーズのキャッチフレーズは一球入魂です。

選手代表が発表

シルバージャガーズ



リトルファイターズ

リトルファイターズは、5年3人、4年4人、3年1人、2年7人、1年3人の18人です。今年は全大会・全試合に参加します。一試合でも多く勝てるように監督、コーチの指導をよく聞いて一生懸命頑張ります。練習の成果が出せるようチームみんなで力を合わせて頑張ります。よろしくお願いします。

選手代表が発表

エールから全選手に記念品が贈られる

エールから、三十周年を記念して全選手に記念品が贈られました。全チームキャプテンが登壇し、蔵元会長から代表のキングドラゴンズ土田謙太郎キャプテンに手渡されました。

なお、連盟役員に対しては、あらかじめ連盟公式行事などの際の正装用の「ネクタイ」がエールから贈られ、この式典から着用されました。

「クリーンエールのお母さん方からしっかり勉強するように」との記念品です。なお、おいしいケーキも用意してありますよ。と蔵元会長から土田選手へ



ビクトリーズ高田監督が受賞のお礼を述べられる

連盟創立三十周年並びにエール二十周年記念の式典におきまして、様々な賞状、感謝状をいただきましたことは誠に感激の極みでございます。

この感激を胸に、これからも連盟並びにエールの発展のために努力をいたす覚悟でございます。

なお、皆様には今後とも変りないご指導を賜りますようお願い申し上げます。

受賞者を代表いたしまして心より御礼申し上げます。

本日はどうもありがとうございました。



チーム創設三十年の受賞をされた平井ビクトリーズ高田耕司監督から、受賞者を代表して、お礼の言葉が述べられました。

閉会宣言

岩瀬昭夫副理事長の閉会の言葉、手締めにより式典は盛会のうちに閉会されました。



受賞者の皆様おめでとうございます。ご出席の皆様、早朝から準備していただいた皆様、いろいろとご協力いただきました皆様、無事式典も終了できました。ありがとうございました。今後とも連盟へのご支援、ご協力をお願いします。と述べ、手締めの音頭をされる 岩瀬副理事長

【祝賀会】



連盟・エール活動にいただいた大きな評価
益々期待される夢に挑戦する
子どもたちの育成

多田正見区長をはじめ、連盟を支えてくださる多数の方々をお迎えして、二〇〇名を超えるとい
う満場の中で感謝と励みの祝賀会が開催されました。

一田席いただいた皆様から、連盟の永年の活動を称えるお言葉とともに、野球を通じた子どもたちの
人間教育を期待する言葉などをいただき、意義の節目のひと時が過ぎられました。

ここでいただいた皆さんの貴重なお言葉から、長く記憶に残ることができるよう、以下、できる
だけくわしく本会の様子を紹介いたしました。

なお、お発言の内容は、式典広報担当係にメモしたものをもとに、要旨とさせていただきます。
不十分な点はお許しください。

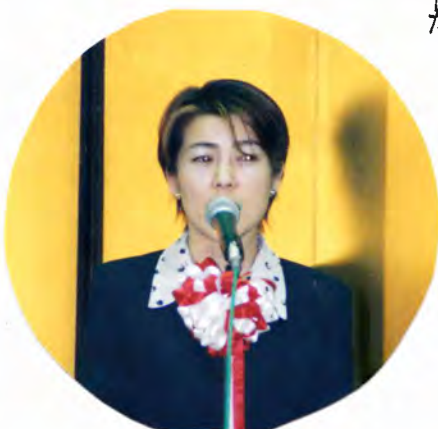
アトラクションの勇壮な 小松太鼓で開会

祝賀会、アトラクションの小松太鼓のす
ばらしい演奏が、会場の雰囲気盛り上げられ
橋田甲郎総務部長、佐藤貞子エール副会長
の両名で開始されました。



閉会の辞

鈴木美エール副会長が、多数の方々の
出席に感謝の言葉を添えて閉会を告げまし
ました。



区歌斉唱

そしてグリーンエールの士名の方々のリードで区歌を華々文喧 気分を新たにいたしました。



主催者挨拶

谷川県父会長、蔵元寛会長、小暮淑子エール会長が壇上、谷川県父会長が連盟代表として挨拶いたしました。



《左から小暮さん、谷川さん、蔵元さん》

各賞を授け、またクリーン少年野球連盟創立30周年、クリーンエール創立10周年の祝賀の開催に、多忙の中、多田正見区長さんをはじめ多数の方々、出席をいただいたことに、大変感謝の方々、各団体の代表の方々などのお名前をいながら、出席のお礼を述べました。

そして、連盟の30年の経緯を、発足時その後の経緯をくわしく述べられ、往時と現在の子どもたちの様子、また、諸先輩のお名前をいながら感謝と労い、お礼の言葉を述べました。そして

「私も、子どもあつての野球です、子どもあつて今日話したいと思っています。30周年を期して子どもたちをひとりでも多く迎える努力を二層進めたいと思っています。また、この間、母の会が絶大な支援、子どもたちのサポートをしていただき、大変感謝しております。連盟40年、50年に向かって歩むわけがありますが、子どもたちの指導では、正確に、心の健康も大事に、ルールよりも個性を重んじた余給のある指導をとの二をお願ひしたい。指導者は、勉強をし、そして輝く連盟になる。」と連盟の努力点を述べ、そして「出席の皆様は、蔵元会長、小暮会長を中心として一歩二歩前進してまいりますので、皆様の指導、支援をまろしくお願ひ申し上げます。」との要旨で結びました。



江戸川区長表彰

次いで多田区長さんから用意された表彰状
連朗氏に授与されました。

会 長 蔵元寛造
理事長 最上正義
副理事長 川嶋進



《蔵元さん》



《最上さん》



《川嶋さん》



「あだは本年にむけクリーン少年野
球連盟の役員として地域の活動はもとより、
世界大会の出場ホームステイの受け入れな
ど国際親善にも貢献され、青少年の健全育成
に尽力されました。このことは教育界同の地
域社会への活路であり他の模範であります。
創立二十周年に当たり、今後一層の活躍を
期待し、区民を代表してこに深く感謝の意
を表します。」

エール長 小暮淑子

「あだは本年にむけクリーンエール
の会長として深い人望と類まれな指導力によ
り、連盟を側面から支えられ、青少年の健全育
成に多大の寄与をされました。このことは教
育界同の地域社会への活路であり他の模範で
あります。クリーン少年野球連盟創立二十周
年、クリーンエール創立二十周年に当たり、
今後一層の活躍を期待し、区民を代表して
こに深く感謝の意を表します。」



《小暮さん》



来賓御挨拶

江戸川区長

多田正貞様



「クリーン少年野球連盟創立三十周年、クリーンエール創立二十周年」
 本当におめでとございます。

今、区民の方々の気持ちを込めて心から感謝状をお贈りいたしました。が、この記念の場で皆様方とともに、お祝いをお祝いされることをうれしく思っております。谷川名誉会長さんがお話された通りで、多くの皆さん方のご支援、ご努力によって今日の連盟の姿があるわけでございます。最初からこの連盟にたずさわってくださった谷川名誉会長をはじめ、いろいろな方々のお名前があらりましたが、こうした方々を中心に活動くださった方々に心から敬意

を表したいと思えます。

三十年前から世の中も大きく変わり、様々な子どもたちにかかわる問題もありましたが、野球というスポーツを通して指導に打ち込んでいただきまして、すばらしい子どもたちが沢山育って行ったわけでありまして、今日も元氣浚刺として活躍する多くの少年野球のみなさんの姿を見るにつけました。地域の大きな力に感謝しないではいられません。

江戸川区は、大変野球のレベルも上がりまして、強いチーム、また優秀な選手も沢山育っているありがたい状況にもなっております。

先程展示室を拝見しましたが、東

海大浦安高校が甲子園で準優勝したときの記念の品々や城東高校が出場した時のものの展示物もありました。が、城東高校が甲子園出場し、帰ってこられた江東区長さんから、私が甲子園に行けたのは江戸川区のおかげですと言われました。バッテリーもそうだし選手のほとんどが江戸川区出身だしと言われました。勿論承知しておりますがそのように言われました。二回目に出場した時も同じように言われ、浦安の市長さんからも東海大浦安が強いのは同じように江戸川区のお陰ですと言われました。

言われると嬉しいことは嬉しいの

ですが、最近では、地元の高校からなるべく早く出られるとより嬉しいなと思っております。甲子園に行かれたときは、私が皆さんに感謝申し上げたいと思っております。

いろんなスポーツがありますが、すべてのスポーツは人間を鍛えるということ、特に少年のスポーツは、少年の心を鍛える、体を鍛える、根

小松川平井連合町会長

秋元登佐二様



「日頃、連合町会にいろいろな行事にご協力いただきありがとうございます。改めて御礼を申し上げます。今日は周年行事、誠におめでとうございます。」

私は、地域の三つの学校の評議委員を務めています。会議のときにいろいろ校長先生や教頭先生からお話を承っておりますが、この地域は優秀

性を鍛えるといった格好の機会です。これからも連盟で鍛えていただきたい、江戸川区全体がすばらしい少年育成の場となるように心から描いているところです。

益々のご活躍と、連盟、エールの発展を願ひまして、お祝いのご挨拶といたします。」

な子どもが多いと申されます。その会議の際には、特に、地域の子どもたちを取り込んだ、融合した活動をお願いするとよく言われています。地域に融合という意味について、私なりの思いですが、やはり学校の教育というと、前段のほかに子どもとのかかわりに重きを置いてやっている。そこには自ずから限度があるのではないかなという感じを受けています。その限度のこの教育をするところが野球連盟の活動する場であり、子どもたちの教育の場ではないかと思えます。

エールのお母さん方も大勢おりますが、昔は学校で先生からなぐられるという厳しい指導もあり、当然のことだった。今はなぐるといふのはなかなか難しい時代になった。連盟でもスポーツで強い訓練をしているんではないかと思いますが、家庭からは強い指導を望まれているのでは

ないだろうかと思っています。礼儀の正しい、お互いに仲良くやる、根性を持つてやれるそういう指導をされていると思う。そう思うと少年野球連盟は、世の中のための全般にわたった教育を、学校とは違うより以上のことをしていると思う。

三十年前の子どもは、今は四十代、社会の中心になっていろんな面で活躍している方ばかりだと思います。少年野球連盟で鍛えられた身体と

江戸川学童少年

軟式野球連盟会長

森 崑郎様



クリーン少年野球連盟二十周年、クリーンエール二十周年おめでとうございます。また、エールの皆さんきれいな声を聞かせていただきありがとうございます。

三十年、継続は力なりと言われて

精神を発揮して、今の社会で大いに活躍される、少年野球連盟は、大きな仕事をしてきたんだなあと、これからの大きな仕事をやっていたきたいなと思います。

これから四十年、五十年と永く続くと思いますが、蔵元会長さん、小暮会長さんを中心に益々発展され、我々もこの立派な団体を盛り上げて行きたいと思っています。」

います。私の記憶では会長は、平田谷川、蔵元さんの三代、理事長は谷川、谷田、蔵元、最上さんの四代、その方々を中心に、その他の連盟役員が組織運営に力を合わせ、また、監督、審判団の努力で子どもたちの面倒を見てくれたと思います。そこに加えて、エールのお母さん方の輪ができた。ありがたいことだと思います。

江戸川には十連盟があり一番多いのですが、組織としては大分遅れているなと思っています。皆さんのやっておられる監督幹事会は十五年前にはあり、江戸川では三、四年前で、初めて監督の意見を取り入れています。また、江戸川には母の会というのではなく、エールという母の会、小松川だけではないかと思っています。連盟創立時は、大勢の子どもがい

たと思います。当時は、防災拠点づくりやスポーツの多様化などもなかったわけで、今は、少子化の中にあり、子どもたちも半分位になっていると思いますが、昨年は江戸川大会でクリーンのチーム・キンドラが優勝し、オールスター大会では、いつも八割位は優勝していると思います。言わせて頂ければ、少年野球、学童野球というのは、中学校までは地元の学校でやらせて、全校で友達づくりをし、スポーツをしてもらいた

ければありがたいなと思っています。江戸川では、三、四年前から女子チームを作っているが、部員数も段々と増え、今年は葛西だけで三十五名、区内では一〇〇名位はいるのではないかと思います。女子にも野球をやらせたらどうかと思っているが、今年は小岩や篠崎にもできています。葛西では二チーム位は作れると思っている。そうすると区長さんにグラウンドをお願いしなければと思っています。

先程、城東高校の話も出ましたが、江戸川の高校が行けたらもっとすばらしく楽しいと思います。

これからは、クリーン連盟が江戸川のリーダー格と思っており、これからリーダーとしてよろしくお願いいたします。」

少年軟式野球

国際交流協会会長

島村宜伸様



「大変すばらしい歴史を作って晴れて三十周年、クリーン少年野球連盟、また、大変クリーンでホットなエールを送りつけて縁の下の力を發揮して二十周年、クリーンエール、おめでとうございませう。」

私も子どもの頃は野球少年で先輩格です。同じ地域で野球少年として育った人間です。子どもの頃は四時起きしてグラウンドを使わせてもらって権利をいただいて、試合の前と後にはグラウンドをきれいにこねて、小さ

な小さなグラウンドをどうやらまともにして次の権利を得る、そんな経験もさせていただいた。当時は多くの仲間たちと野球を通してすばらしい交流を持つことができた。今言うと非常に貴重な経験だと思っている。

クリーン少年野球連盟は、昭和四十九年、平田会長、谷川理事長のコンビでスタートし、現在では蔵元会長、最上理事長ですが、大変見事な運営の中で、青少年の健全育成という主旨に照らして野球を通じての教育を施す、誠にすばらしい。

最近では、少子化でどうしても家庭では過保護になり、戦後教育は道徳教育も悪くて、礼儀作法もおろそかになり、そしてまた、文明の発達と文教の姿の前進のために、かえって子どもたちは驚沢になって、基礎体力も落ちる一方だ。

私は学生的时候は勉強しなかったが今でも自信はないが、体を使えたかという大変な自信を持っている。たまたま主戦投手を張っていると、上背が小さいですから、他人の二倍も三倍も走り込み投げ込みをして今日がある。そのお陰でどんなことでもやってのけるという体力がある。野球には本当に歳とともに体力にしても重い気持ちがある。

野球は万能のスポーツですし、野球を通して、単に野球だけでなく人

間教育をしていただけたところに、クリーン少年野球のすばらしさがある。やはり礼儀作法、知識と向きまえて、どんな苦しさにも耐える、スポーツマンならではのものを身に付けて初めて目的を達成する。この意味でもこの三十年は、大変価値のあるものとして称えたい。

クリーンでホットなエールを送り続けたエール、小暮会長をはじめみなさんのすばらしいご奉仕にも深く敬意と感謝をしている。

ジュニアセントラル名誉会長

大西英雄様



「この場内に掲げられた各チームのフラッグを見ると、汗と涙のしみ込んだ風格のあるフラッグだ。その内容もネバギブアップ、きびしくただしく、一球入魂など、それぞれ今の子どもたちに一番大切な精神・

このすばらしい活動をさらにさらに続けて他の模範となるように、特に谷川名誉会長、心臓の手術を克服して今日まで導いてくれた、野球への情熱をそのまま地域社会、国家の反映にも貢献へと結びつく、皆さんそれぞれの持てる力を大いに発揮してください。

これからの発展・活躍を心からお祈りするとともに、我々も、これからもお手伝いすることを誓いお祝いの言葉とします。」

スピリットが書かれている。こうしたことを目標に、谷川名誉会長を中心に、みんなが我が子どもものように鍛えてくれた。これが今日連盟の発展があるとしみじみと感じる。

クリーンエールの小暮会長を中心としたやさしさ、人生やはり厳しさだけではだめで、殿方の厳しさに母親のやさしさがあつて初めて子どもたちが、力強くたくましく育って行くと思う。

これからの時代の中で、クリーン連盟がこの三十年間培ってきたスピリットは、多くの人たちに夢と希望を与えてくれるのではないかと思います。

蔵元会長さん、最上理事長さんはじめ大勢の役員の皆様方、これから

もさらにさらに夢に向かって前進し続ける子どもたちを育ててくださいますようお願い申し上げます。ご挨拶といたします。」

ご臨席の方々紹介

ご臨席の方々について、次のとおり紹介され、多くの方々にお越しいただいていることが報告されました。

江戸川区軟式野球連盟会長

三田三行様

青少年育成小松川地区委員長

小川善雄様

青少年育成平井地区委員長

酒井四郎様

都議会議員 初鹿あきひろ様

区議会議員 副議長北川ひろし様

松下彰天様

瀬田勇様

このほか

地元の小学校、中学校の校長先生、PTA会長の皆様

江戸川区学童少年軟式野球連盟

各支部常任理事の皆様

少年軟式野球国際交流協会

関係者の皆様

東京都親善野球連盟の皆様

地元のスポーツ団体

地域団体の皆様

そしてクリーン少年野球連盟及びクリーンエールのOBの皆様方

周年記念 クリーン少年野球連盟 周年記念 クリーンエール



鏡開き

多田区長様、秋元様、森様（代・田中康之理事長）、三田様、小川様、谷川名誉会長、蔵元会長の皆様により、司会者の声に合わせ、賑やかに祝いの鏡が開かれました。

乾杯

小松川信用金庫理事長
横塚彰彦様



「本日は、クリーン少年野球連盟創立三十周年、クリーンエール創立二十周年誠にめでとうございます。古い言葉に、異体同心なれば万事を生じ、同体異心なれば諸事叶う事なしという古い言葉がございます。すなわち大勢の方々が一つの目的に向って力を合わせれば、どんなことでも達成することができ。また反対に、大勢いても心がひとつにならなければ何もできないということでもあります。クリーン少年野球連盟、クリーンエールの皆様におかれましては、心

懇親

をひとつにして立派に今日を迎えられたことと心より敬意を表します。乾杯は、おめでとうございますで「ご唱和ください。乾杯！」と音頭をされました。

懇親は、立食のパーティ式で行われ、場内のあちこちで歓談の輪が作られ、連盟の思い出や野球談義が溢れました。

また、興が乗った場を、小松川信用理事長 栖原修吾部長、鈴木明美エール副会長がマイクを持って回り、インタビューも行われました。

谷田理事長、丸山ギンゴドラゴンズ代表、小松川二中学校、森下東海大浦監督（ギンゴドラゴンズOB）なみなさんの方々がインタビューに応え、連盟の思い出や今後の連盟への期待を話していただきました。



《司会される佐藤百合子エール副会長》



祝賀会場スナップ





《シンタビューに応えられる
森下東海大浦安高監督さん》



祝賀会場スナップ



次いで連盟より、次の方々に感謝
状が贈呈されました。

蔵元会長は、次の内容の感謝状を手渡されたのち、満場の皆様に、この方々には、クリーン連盟も大変お世話になりました。と紹介、重ねて感謝と引き続きのご協力の言葉を述べました

代表取締役 中村圭吾様

副会長 西村久雄様



《受けられる中村様》

代表取締役 高橋成知様

加藤季子様

要「多年にわたりクリーン少年野球連盟並びにクリーンエール発展のためにご理解をいただき、積極的にご支援、ご尽力をいただきました。その功績は誠に大であります。よつてここに連盟創立三十周年に当たり、これまでの功績に対し、深く感謝の意を表します。」

エールから記念品の贈呈

大きなテント一式が
連盟に贈呈される

クリーンエール小暮淑子会長から、連頭蔵元富造会長に、記念品（テント一式）が贈呈されました。

小暮源太長は、贈手先立ち、会場の皆様に、次の主旨の挨拶をいたしました。

本日は、クリーン少年野球部創立三十周年並びにクリーンエール創立十周年の祝賀に、かまも賑々しく、田席したきまして本言にありがとうございます。母の会を代表いたしました厚く御申し上げます。

クリーンエールは、今日は、皆様の口頃
の温かい支援のお陰をもちまして、連盟に



記号等を差し上げるといふことになりまた、
これひとつに地域、団体の皆様の力の押解
現象員の皆様の日頃のお力添えのもとで
こつこつとすばらしいものを育んでまゐりて
なりました。



一十年の中で、私も今は、子どもたちに常に励まされ、あつけない笑顔、自信から時に、くしけることもありました。そうした中で、常に子どもたちに励まされ、また、すばらしい感動、たくさんいただきました。本当は、子どもたちに感謝したいと思ひ、いつぱいです。でも、この中で、クリーンエールも早いものでもう、十年が過ぎ、人間、言えは、王歳、ハニニ、ききよ、よく、連盟の支援団体として、世間の皆様、に認められる団体になったのではないかと自負しています。これからもう、クリーンエール、連盟、でも、もう、言葉援いた、きながら、頑張つて行きたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。」



《左から小暮さん、川嶋さん、最上さん、蔵元さん》

花束贈呈

区長表彰を受けた蔵元会長、最上理事、長川嶋副理事長、小暮エール会長に、干し須藤寛子、鈴木明美、佐藤久美子の三副理事長と岩瀬副理事長が花束を贈り、満場の拍手、祝福されました。

祝電披露

この日に寄せられた温かなお祝い、応援の言葉が紹介されました。

謝辞

連盟理事長最上二正義



《左から小暮さん、最上さん、谷川さん、蔵元さん》

閉会の辞

副理事長川嶋 進

「本日はありがとうございました。これをもちまして祝賀会を閉会させていただきます。三献で締めさせていただきます。ご唱和のほどよろしくお願いたします。」

佐藤光子エール副理事長の拍子木が添えられ、会は盛況のうちに散会されました。

「いろいろ用事のあつた中をクリーン少年野球連盟の祝賀会駆けつけたいただき、また下に深く感謝申し上げます。クリーン少年野球連盟は、先輩氏がおおきな礎を作ってくださいました。一つの家に例えますと、基礎ができてから二階建ての家ができます。そしてようやく階が上がったとそんな曲調がさいます。クリーン少年野球連盟の指導者、お父さんたちは野球を指導する、お母さんたちはかけがえのない人たち、お父さんお母さんたちが円満でつづけます。子どもたちは健康に育つてきていると思います。クリーンの子どもたちはおもしろい子どもたちで、お父さんお母さんお兄さんお姉さんというふうな現在のクリーン少年野球連盟の姿がさいます。

この会を作り頑張ってきたために、大きな声援をいただいたのは今日お集まりの皆様です。心から感謝の意を表したいと思います。今回のひとつの大きなテーマは、今までのクリーン少年野球連盟に一生懸命応援してくれたい感謝をします。それから次の世代を担うために若手お父さんお母さんたちに、ぜひ今日を機会に引き継いでほしいというのが大きなテーマです。クリーン少年野球連盟は、そういうメンバ―意欲のある人たちがたくさんつづいていきます。ぜひ皆様方今後ともクリーン少年野球連盟を影から応援していただき、と思います。これが私の今日の皆様へのお願いです。本日は粗末恐ろしいですが、本当にありがとうございました。」



「展示会」

チーム対抗パネル写真展で賑わう
多数の方々が観賞され
332名の方々が人気投票される



三月九日、連盟・エールの創立記念式典及び祝賀会と並行して、館内第一集会室において、チーム対抗パネル写真展が開催されました。

この写真展では、チーム対抗パネル写真展をメインに、チーム対抗パネル写真展では、九チームとエールがそれぞれパネル1枚製作して出展。連盟活動紹介展では、連盟広報誌の「しおり」とナイスキャッチを創刊号から展示。そして連盟の主な活動を、パネル写真、板、紹介、また、都知事からの表彰状、各チームの記念誌、甲子園出場OB選手たちのユニフォーム、写真賞状、メダルなどが展示されました。写真展は、朝の準備終了とともにオープンされました。

正長さんも観賞され
投票にも参加される
各チームのパネル写真は、試合記録



など、曇寒さの厳しい中にも、子どもたちが繰り広げる果敢なプレーや目を引く見事なプレー、また、休息のひと時は、見せるつたのなないしき、時々の記念写真など、心に響く一瞬一瞬を収めた力作などが見られ、見る人同士の作品評が賑やかに交わされていました。

写真展は、多田区長さんをはじめ、来賓の方々も多数観賞、投票にも参加されました。

式典、祝賀会の前後といった制約された中にもかかわらず、多数の方々が観賞され、チーム対抗パネル写真展に投票された方は332名、総投票口数は618票（一人2票まで）という多数となりました。



人気投票作品

一番はキングドラゴンズ
全投票者の中から
五名の方に記念品を贈呈

写真展での投票の結果は、三月二十五日の連盟二月定例理事会で整旦され、合わせて全投票者の中から五名の方の抽選が厳正に行われました。その結果は、次のとおりです。

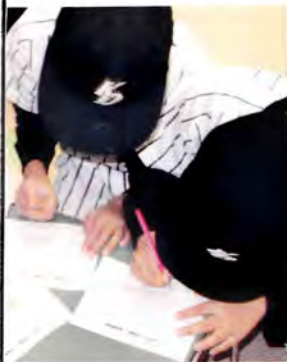
なお、人気投票上位チームの表彰は同時に行われ、記念品贈呈者には、直ちに郵便により記念品の送付がされました。

△人気投票

- 一位 123点 キングドラゴンズ
- 二位 81点 山彦エンゼルス
- 三位 75点 スーパードラゴンズ

△記念品当選者

高橋貴寛様
柴田真人様
新井佑輝様
松野妃都美様
重田精司様



展示会場スナップ

